

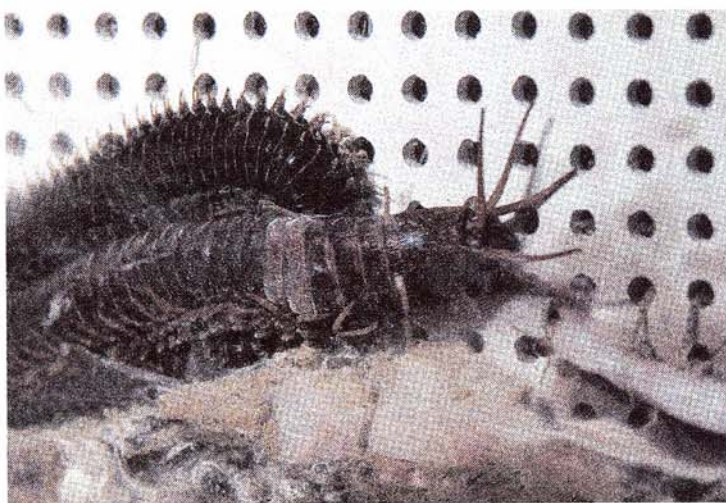
水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

18

加藤 哲哉

オニイソメ



△ニイソメの頭部
(水槽番号204)

体長1メートルもあるオ

ニイソメの頭部

ゴカイという動物がいる。海釣りの餌に使うあれである。どぢらかという気持ちの悪い生き物で、一般的にはあまり注

体長1メートルの巨大ゴカイ

目されない。しかし、世界の海で約8000種、日本近海からも1000種以上が知られる。今も続々と新種が見つかって

中에서도一番の目玉はオニイソメだろう。長さは1メートルを超え、太いところ

ムラクモケヤリで見ることが出来る。306号水槽のウミケムシは派手な模様があり、白い剛毛に覆われている。この剛毛には毒があるの

いる。もちろん種数が多いだけでなく、いろいろなタイプがいる。京都大学白浜水族館では、常時数種類のゴカイを展示している。年間実績では2005年に12種を飼育しており、日本の水族館で堂々の1位だ。

て、水槽ガラス面内側に張り付けた厚み1センチのポケット水槽で飼育している。このすみかはそのこ快適なようで、同一個体を約5年間飼育したこともある。ただ難点は暗くて見にくいことだ。お客さんには水槽脇に

花のようなフサフサしたものが出ているがこれもゴカイの仲間だ。ケヤリムシ、ホンケヤリムシなどで、粘液質もしくは石灰質の管の中にすみ、頭部にある花のような鰓冠(さいかん)だけを外出し、プランクトンを集めて食べる。外敵が近づくとすごい勢いで管の中に引っ込んでしまう。その様子は221号水槽の

目などに隠れている。水族館ではこれに似せ

同じ水槽の下側には岩組みがしてあり、所々に

組むがしてあり、所々に

(京都大学技術職員)